

## 県中浄化センターにおける下水汚泥の放射能量調査結果について

平成23年5月1日

福島県災害対策本部

県中浄化センターにおいて、下水汚泥及び溶融スラグから高濃度の放射性物質が検出された。

下水汚泥 → 放射性セシウム 26,400ベクレル/kg

溶融スラグ → 放射性セシウム 334,000ベクレル/kg

下水汚泥は80t/日発生しており、10t/日をセメント会社で再利用、70t/日を溶融炉で処理し濃縮された溶融スラグが2t/日発生する。

高濃度の原因としては、降雨により地表面の放射性物質が混入し、下水処理の過程において濃縮された結果と推定される。

1 確認日：平成23年4月30日

2 採取場所：県中浄化センター（郡山市日和田町高倉字追越89番地）

3 今後の対応

- ・溶融スラグは場内のストックヤードに保管し、安全な距離を取ってバリケードで立ち入りを制限する。
- ・作業員には放射線量測定器を携帯させて安全を確保する。
- ・セメント会社での再利用を当面の間休止する。
- ・県内の合流式下水道（福島市、郡山市、南相馬市、いわき市）の調査を速やかに実施する。
- ・県内の分流式下水道についても抽出のうえ放射能量を調査する。
- ・溶融炉を安全に運転する方策、溶融スラグ等を安全に処理する方策、放射能量が高い下水汚泥を安全に処理する方策、再利用のため搬出した下水汚泥等の安全な取扱い方策、作業員の安全確保のための方策について方針を早急に出すよう国に要請する。

※ 溶融炉・・・1200℃の高温で汚泥を溶融し汚泥を減量化(1/30)する施設

溶融スラグ・・・溶融処理により発生する細かく粉砕されたスラグ

合流式下水道・・・汚水と雨水を同一の管渠で排除する下水道

事務担当 主幹兼副課長 長澤信一 080-2807-7025

主幹 石橋和司 080-2300-1497